

平成30年災 主要地方道呉環状線災害関連事業

【概要】

平成30年7月5日から8日の梅雨前線豪雨により、呉市天応町から焼山町において、同時多発的に大規模な土石流が発生し、下流域である天応地区では、死者12名、家屋の全半壊等の甚大な被害が発生した。山峡部にある主要地方道呉環状線においても、土石流による道路の決壊や斜面崩壊等が発生し通行止めとなり、周辺幹線道路の被災と合わせ地域が孤立した。

崩壊斜面に隣接する斜面は、同等な災害が発生する可能性が極めて高く、また被災した兼用護岸の隣接箇所についても、河床低下により著しく脆弱な状況にあることから、再度災害防止を図るため、災害復旧に合わせて改良する。

さらに、被災区間の一部は、狭隘で線形が悪いため、前後の改良区間に合わせ、道路構造令に規定する規格の範囲において、道路線形改良を含めた道路拡幅（3種4級）を行う。

【事業内容】

事業主体：広島県

道路名：主要地方道呉環状線

事業箇所：呉市天応町～焼山町

事業延長：1.2km

事業期間：平成30年度～平成32年度

事業費：約7.5億円（うち改良費約3.6億円）

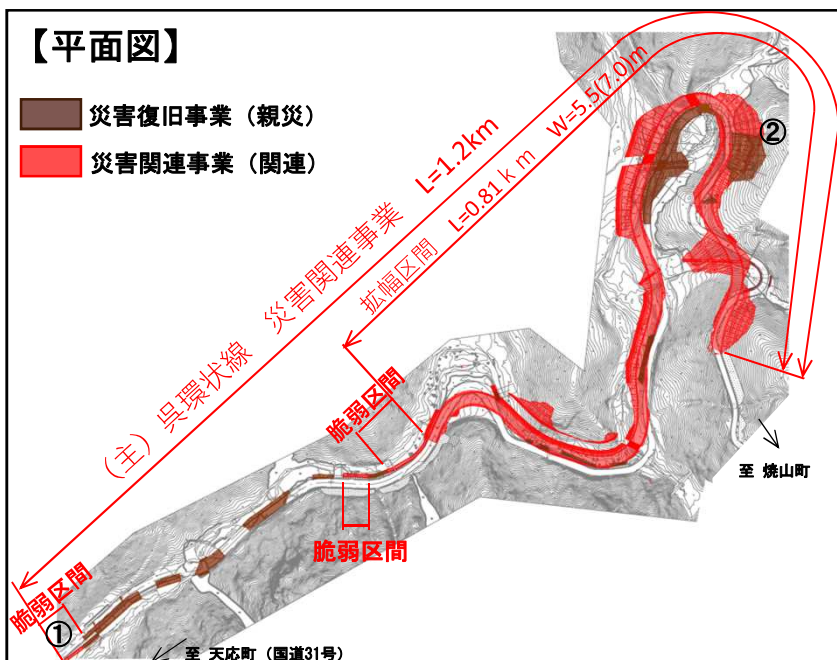
工事概要：橋梁、吹付法枠工、護岸工 等



【平面図】

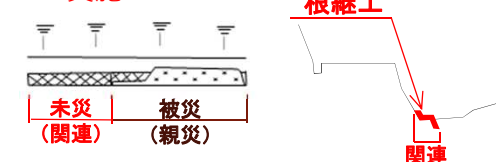
■ 災害復旧事業（親災）

■ 災害関連事業（関連）

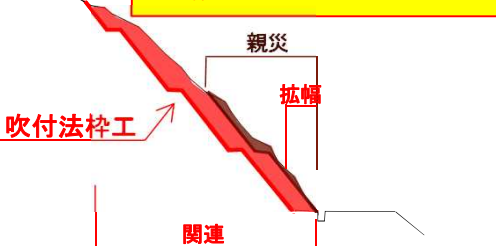


【横断図】

① 災害復旧に合わせて、河床低下による基礎の露出箇所に根継工を実施



② 法面对策工の実施に合わせて道路幅員を拡幅



【被災状況写真】

①



基礎露出箇所に根継工を実施

②



法面对策を脆弱区間も合わせて実施